

知っていますか？アンコンシャス・バイアス

●「アンコンシャス・バイアス(unconscious bias)」ってなに？

それぞれの価値観や過去の経験等に基づいてつくられた、自分では気づかない無意識の偏見や思い込みのことです。そんな無意識の偏った物の見方は、普段の会話や生活に溢れています。

子育て

- 子育ては母親がするものだと思われる。
- 「男の子なのだから、強くなろう」という。
- 「女の子なのだから、ピンク色の洋服を着るように」という。



仕事

- 育児期間中の女性は重要な仕事を担当すべきでない。
- 男性は、パソコンや機械関係に強くて当たり前。
- 女性の賃金が男性の賃金より低くても「仕方がないこと」として感じてしまう。



アンコンシャス・バイアス 例えば…

家族

- 家を継ぐのは男性であるべきだ。
- 男性は仕事をして家計を支えるべきだ。
- 共働きで子どもの具合が悪くなった時、母親が看病するべきだ。



その他

- 男のくせに泣くものじゃない。
- 女性は感情的になりやすい。
- 血液型を聞いて、相手の性格を想像することがある。
- 性別、世代、学歴などで相手を見ることがある。
- 家事全般をこなす男性のことを「感心だな」と思う。



●「アンコンシャス・バイアス」への気づき

上記の項目はあくまで一例ですが、アンコンシャス・バイアスは誰にでもあるものです。あること自体が、悪いわけではありません。「決めつけ」たり、「押しつけ」たりすることで、気づかないうちに、相手を傷つけているかもしれません。自分の決めつけや押しつけの言動に気づいたならば、「これは、私のアンコンシャス・バイアスかも？」と一度立ち止まって考えてみて、相手を尊重する心の姿勢を持つことが重要なのではないのでしょうか。



●「アンコンシャス・バイアス」を解消する各企業の取組

- ・玩具メーカー ➡ 男女別だった売り場を融合し、男女の垣根を低くしました。
- ・ランドセルメーカー ➡ 「男の子は黒、女の子は赤」が支流だったランドセルですが、誰でも好きな色を選べるように色とりどりのランドセルをつくっています。
- ・洋服メーカー ➡ ユニセックスという男女どちらでも着ることができるデザインの衣服をつくるようになりました。また、性別にこだわらず好みの製品を求める傾向が背景にあるため、女性が気軽に男性向けスーツを購入できる店舗を設けています。